

## 平成22年6月期 第2四半期決算短信

平成22年2月8日

上場会社名 株式会社 ビューティ花壇

上場取引所 東

コード番号 3041 URL <http://www.beauty-kadan.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三島美佐夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 須浪薫

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

TEL 03-5776-5850

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年6月期第2四半期の連結業績(平成21年7月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年6月期第2四半期	1,953	5.6	57	—	62	—	14	—
21年6月期第2四半期	1,849	—	△42	—	△40	—	△56	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年6月期第2四半期	605.77	592.16
21年6月期第2四半期	△2,285.12	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年6月期第2四半期	1,367	479	32.8	18,421.83
21年6月期	1,315	483	34.7	18,564.23

(参考) 自己資本 22年6月期第2四半期 448百万円 21年6月期 456百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年6月期	—	0.00	—	345.00	345.00
22年6月期	—	0.00	—	—	—
22年6月期(予想)	—	—	—	1,213.00	1,213.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年6月期の連結業績予想(平成21年7月1日～平成22年6月30日)

(％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	7.4	230	277.0	240	269.2	100	—	4,043.16

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）無  
新規 一社（社名 ） 除外 一社（社名 ）

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
（注）詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更）に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

（注）詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 22年6月期第2四半期 25,002株 21年6月期 24,600株

② 期末自己株式数 22年6月期第2四半期 630株 21年6月期 一株

③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間） 22年6月期第2四半期 24,733株 21年6月期第2四半期 24,548株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は業績の変化等により上記数値と異なる場合があります。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国経済を中心にアジア諸国の経済が順調に回復いたしました。一方、米国ならびに欧州の景気も、緩やかな回復に向かっていますが、それ以前の落ち込みが大きかったため経済水準はなお低く、総じて厳しい状況が続きました。わが国経済も回復基調にあるとはいえ、昨年来の欧米の景気後退の影響による企業収益の大幅減退を受けた設備投資の減少、所得の減少や雇用環境の悪化による個人消費の伸び悩み等から、景気低迷の長期化が懸念されております。当社の事業を取り巻く環境としましては、ブライダル需要は横ばい、件数が増えているフューネラル需要も、単価が下落傾向であるため、花の需要はトータルで横ばいに留まっているものと思われれます。当社はこのような状況の中、全社基本方針として、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上アップと徹底的な経費削減を推進してまいりました。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、生花祭壇事業、生花卸売事業ともに堅調に推移し、1,953,624千円（前年同期比5.6%増）となりました。売上総利益については、売上増に伴う売上総利益の増加と技術部門費の削減による売上原価の低減により、452,909千円（前年同期比24.6%増）となりました。販売費及び一般管理費については、人件費や広告宣伝費を抑え395,207千円（前年同期比2.8%減）となりました。その結果、営業利益は57,701千円（前年同期は42,812千円の損失）となりました。また、経常利益は62,883千円（前年同期は40,906千円の損失）、四半期純利益は法人税等調整額や少数株主利益により14,982千円（前年同期は56,097千円の損失）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （生花祭壇事業）

生花祭壇事業の売上高は、1,491,703千円（前年同期比1.6%増）となりました。当事業が主として属する葬祭業界におきましては、消費者の支出は景気動向の影響は直接的には受けにくいといわれておりますが、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」（サンプル調査）によると、葬儀業の平成21年7月から11月の売上高は196,166百万円（前年比2.2%減）、件数は130,488件（前年比1%減）となっております。このような状況のもと、前述の全社基本方針の徹底により、当社の当期平成21年7月から12月の累計期間における国内の生花祭壇の受注件数は前年より585件増えて8,354件（前年比7.5%増）となり、大幅に増加しました。この結果、営業利益は227,340千円（前年同期比22.1%増）となりました。

#### （生花卸売事業）

生花卸売事業の売上高は、376,255千円（前年同期比17%増）となりました。当事業の主要顧客が属する生花小売業界におきましては、スーパーマーケットにおける低価格カジュアルフラワー販売や大手生花チェーン店の台頭により、営業状況は厳しい状態といわれており、農林水産省「花き流通統計」（平成21年11月分）によると、切り花累計の数量は前年比で1%減となっております。このような状況のもと、昨年から取り組んでまいりました生花の海外調達も軌道に乗り、平成21年7月から12月の累計期間における輸入本数は317万本と前年同期の245万本より生花の輸入割合は8.5ポイント増加しました。また、前述の全社基本方針の徹底により、営業利益は71,039千円（前年同期比113.4%増）となりました。

#### （その他事業）

その他事業は、ブライダル事業及びプランツスケープ事業からなり、売上高は85,664千円（前年同期比43.9%増）となりました。連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおいては、旬の花材の積極的な採用、生花の仕様の見直し、生花仕入れルートの多様化等による売上原価の低減、既存顧客との接点強化、新規顧客の開拓等による売上拡大をしたことにより、大幅な収益改善がみられました。

また、オフィス・商業施設の植栽による空間演出を行うプランツスケープ事業は、株式会社サンライズジャパンが運営する恵比寿にあるMLBをテーマとし様々な情報を発信するエンターテイメントレストラン「MLB café TOKYO」の植栽・メンテナンスを請け負う大型注文がありました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### ①財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ51,680千円増加し、1,367,336千円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ82,843千円増加し、794,173千円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の増加等によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ31,163千円減少し、573,163千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ56,161千円増加し、888,207千円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べ41,601千円増加し、684,305千円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加等によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ14,559千円増加し、203,901千円となりました。これは主に社債の減少と長期借入金の増加等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ4,480千円減少し、479,129千円となりました。これは主に利益剰余金の増加と自己株式の取得によるものであります。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は186,474千円となり、前連結会計年度末と比べ42,309千円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は37,451千円（前第2四半期会計期間に比べ100,465千円の増加）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益41,304千円によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は20,791千円（前第2四半期会計期間に比べ59,998千円の減少）となりました。これは主に固定資産の取得による支出14,327千円と差入保証金の差入れによる支出7,150千円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は57,575千円（前第2四半期会計期間に比べ94,408千円の増加）となりました。これは主に社債の償還による支出55,000千円によるものであります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

世界経済は中国経済を中心にアジア諸国の経済が順調に回復いたしました。一方、米国ならびに欧州の景気も、緩やかな回復に向かっていますが、それ以前の落ち込みが大きかったため経済水準はなお低く、総じて厳しい状況が続きました。わが国経済も回復基調にあるとはいえ、昨年来の欧米の景気後退の影響による企業収益の大幅減退を受けた設備投資の減少、所得の減少や雇用環境の悪化による個人消費の伸び悩み等から、景気低迷の長期化が懸念されております。当社の事業を取り巻く環境としましては、ブライダル需要は横ばい、件数が増えているフューネラル需要も、単価が下落傾向であるため、花の需要はトータルで横ばいに留まっているものと思われれます。当社はこのような状況の中、全社基本方針として、新規顧客の積極的な開拓、既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上アップ及び徹底的な経費削減を推進してまいりましたが、当初見込んでいた受注件数には達せず、売上に関しては計画とは乖離が発生しました。今後も急速な景気回復や花卉需要の拡大についても大きく期待は出来ないことから、生花祭壇事業、生花卸売事業ともに厳しい事業環境が続く可能性があります。当社グループの下期につきましては、前述の全社基本方針を強力に推進し、利益の確保を目指す考えです。

このような状況をふまえ、平成22年2月3日開示の「平成22年6月期第2四半期及び通期業績予想（連結及び個別）の修正に関するお知らせ」に記載の通り、平成21年8月11日に公表しました平成22年6月期の通期連結・個別業績予想を本資料においても修正しております。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

前第2四半期連結会計期間において、投資その他の資産の「その他」に含めて表示しておりました「差入保証金」は、資産総額の100分の10を超えたため、当第2四半期連結会計期間より区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結会計期間の投資その他の資産の「その他」に含まれる「差入保証金」は111,630千円であります。

前第2四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「不動産賃貸費用」は重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「不動産賃貸費用」は1,839千円であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	186,474	228,784
受取手形及び売掛金	449,330	352,990
有価証券	60,000	60,000
商品	2,223	3,494
原材料及び貯蔵品	32,247	10,282
その他	69,744	60,305
貸倒引当金	△5,848	△4,528
流動資産合計	794,173	711,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	121,549	117,624
減価償却累計額	△49,556	△44,539
建物及び構築物 (純額)	71,992	73,084
工具、器具及び備品	132,244	124,771
減価償却累計額	△89,622	△81,974
工具、器具及び備品 (純額)	42,621	42,797
土地	122,842	122,842
その他	8,094	8,160
減価償却累計額	△7,105	△6,816
その他 (純額)	988	1,344
有形固定資産合計	238,445	240,068
無形固定資産	51,580	66,513
投資その他の資産		
差入保証金	151,877	159,496
その他	149,157	152,405
貸倒引当金	△17,897	△14,157
投資その他の資産合計	283,138	297,744
固定資産合計	573,163	604,326
資産合計	1,367,336	1,315,656

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,295	64,542
短期借入金	191,600	230,000
未払法人税等	20,571	4,201
賞与引当金	2,343	—
株主優待引当金	—	3,500
その他	357,495	340,459
流動負債合計	684,305	642,704
固定負債		
社債	90,000	115,000
長期借入金	96,300	51,940
退職給付引当金	9,965	9,762
その他	7,635	12,639
固定負債合計	203,901	189,341
負債合計	888,207	832,045
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	211,350	209,340
資本剰余金	131,350	129,340
利益剰余金	131,596	125,100
自己株式	△17,245	—
株主資本合計	457,050	463,780
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△8,073	△7,100
評価・換算差額等合計	△8,073	△7,100
少数株主持分	30,153	26,930
純資産合計	479,129	483,610
負債純資産合計	1,367,336	1,315,656

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	1,849,445	1,953,624
売上原価	1,485,795	1,500,715
売上総利益	363,650	452,909
販売費及び一般管理費	406,463	395,207
営業利益又は営業損失(△)	△42,812	57,701
営業外収益		
受取利息	1,146	829
受取地代家賃	4,263	5,478
為替差益	2,223	2,089
その他	3,463	3,197
営業外収益合計	11,096	11,595
営業外費用		
支払利息	3,366	3,267
不動産賃貸費用	1,839	1,993
その他	3,983	1,151
営業外費用合計	9,189	6,412
経常利益又は経常損失(△)	△40,906	62,883
特別利益		
償却債権取立益	—	295
特別利益合計	—	295
特別損失		
前期損益修正損	—	15,558
支社閉鎖損失	2,314	—
リース解約損	—	5,114
その他	284	1,201
特別損失合計	2,598	21,874
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△43,505	41,304
法人税、住民税及び事業税	1,673	17,676
法人税等調整額	12,471	4,449
法人税等合計	14,144	22,125
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1,552	4,195
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△56,097	14,982

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△43,505	41,304
減価償却費	33,334	28,217
のれん償却額	1,756	—
長期前払費用償却額	501	3,456
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,406	5,071
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	2,419
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,638	202
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△1,890	△3,500
受取利息	△1,146	△829
受取賃貸料	△4,263	△5,478
助成金収入	△1,440	△1,800
支払利息	3,366	3,267
不動産賃貸費用	—	1,993
支社閉鎖損失	2,314	—
売上債権の増減額(△は増加)	△51,344	△97,018
たな卸資産の増減額(△は増加)	△14,855	△20,693
その他の資産の増減額(△は増加)	△14,155	4,202
投資その他の資産の増減額(△は増加)	2,362	△7,234
仕入債務の増減額(△は減少)	43,355	48,003
その他の負債の増減額(△は減少)	4,893	33,655
その他	2,534	2,012
小計	△34,136	37,253
利息の受取額	1,493	824
賃貸料の受取額	3,184	4,244
助成金の受取額	1,440	1,800
利息の支払額	△2,989	△3,129
支社閉鎖による支出	△2,314	—
法人税等の支払額	△29,691	△3,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	△63,013	37,451
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付けによる支出	△45,500	△5,720
貸付金の回収による収入	24,106	3,012
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,608	△14,327
投資有価証券の取得による支出	△5,712	—
差入保証金の差入による支出	△51,808	△7,150
差入保証金の回収による収入	3,742	3,393
投資活動によるキャッシュ・フロー	△80,780	△20,791

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	100,000	662,241
短期借入金の返済による支出	△10,000	△700,641
長期借入れによる収入	50,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△86,730	△37,285
社債の発行による収入	50,000	—
社債の償還による支出	△50,000	△55,000
株式の発行による収入	120	4,020
自己株式の取得による支出	—	△17,245
配当金の支払額	△8,392	△8,487
その他	△8,164	△5,177
財務活動によるキャッシュ・フロー	36,833	△57,575
現金及び現金同等物に係る換算差額	△528	△1,394
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△107,489	△42,309
現金及び現金同等物の期首残高	275,682	228,784
現金及び現金同等物の四半期末残高	168,193	186,474

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,468,270	321,621	59,553	1,849,445	—	1,849,445
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	474,369	25,612	499,982	△499,982	—
計	1,468,270	795,991	85,165	2,349,427	△499,982	1,849,445
営業利益 (又は営業損失 (△))	186,182	33,291	△24,497	194,975	△237,788	△42,812

当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,491,703	376,255	85,664	1,953,624	—	1,953,624
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,493	446,291	8,832	460,617	△460,617	—
計	1,497,197	822,547	94,497	2,414,241	△460,617	1,953,624
営業利益 (又は営業損失 (△))	227,340	71,039	△4,478	293,901	△236,200	57,701

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

- (1) 生花祭壇事業……生花祭壇、供花
- (2) 生花卸売事業……菊、胡蝶蘭などの生花
- (3) その他 ……ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,803,420	46,024	1,849,445	—	1,849,445
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	34,334	34,334	△34,334	—
計	1,803,420	80,359	1,883,780	△34,334	1,849,445
営業利益（又は営業損失（△））	196,631	△3,283	193,347	△236,160	△42,812

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,882,115	71,508	1,953,624	—	1,953,624
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,501	48,912	54,413	△54,413	—
計	1,887,617	120,421	2,008,038	△54,413	1,953,624
営業利益	264,795	27,835	292,630	△234,929	57,701

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域  
アジア…… 台湾

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）並びに当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第2四半期連結累計期間において、取締役会決議に基づき、自己株式を630株、17,245千円を取得いたしました。